令和７年度　江戸川区立松江第一中学校　学校関係者評価報告書（学校経営計画・学校関係者評価シート）

学校教育目標	〇思いやりをもち、協力し合い豊かな心をつちかおう 〇進んで学習に励み、がんばりぬく力を身につけよう 〇正しく、厳しく、美しく、生涯の基を築きます	目指す学校像 目指す生徒像 目指す教師像	①生徒が夢や目標に向かって邁進する学校 ②保護者や地域から信頼される学校 ③教職員が生徒のために力を発揮できる学校 ①思いやりと協調整を大切にし、豊かな人間関係を築ける生徒 ②自ら学び、考え、判断し、主体的に行動できる生徒　③心身共にたくましく、困難を乗り越え未来を切り拓く生徒 ①生徒のよさを見出し、それを伸ばす教職員　②豊かな人間性と思いやりのある教職員　③熱意と使命感をもち、信頼される言動がとれる教職員 ④組織人として積極的に協働し、互いに高め合う教職員
前年度までの本校の現状	成果 ・生徒アンケートより「授業がよくわかる」が93%を達成した。授業規律の徹底できた。 ・80%を超える生徒が「学校に行くことを楽しい」と感じている。 ・不登校について校内やクラスでもさらに理解が進んできた。 ・松江一に関わる様々な立場の方々と、情報交換をすることで地域との連携につながった。	課題	・読書に親しんでいるへの回答が「あまりあてはまらない」「あてはまらない」の回答が60%程度であった。 ・体力テストの結果は区の平均を下回っている。早急な対策が必要である。 ・ヤングケアラーの人数が予想以上に多い。支援が必要な世帯を把握、SSWと連携し支援に繋げる。

重点	取組項目	具体的な取組内容	数値目標	達成度		「中間」 学校による自己評価(A～D)		「中間」 学校関係者評価(A～D)		「年度末」 学校による自己評価 (A～D)		「年度末」 学校関係者評価 (A～D)		次年度に向けた改善案
				９月	２月	評価	コメント	評価	コメント	評価	コメント	評価	コメント	
学力向上	・わかる授業を推進 すべての生徒に「わかる喜び」「考える楽しさ」を実感させる。生徒の関心・意欲を高め、主体的に学習に取り組ませる。	・「誰一人取り残さない学力向上アクションプラン」を計画的に進める。 ・個別最適な学びのため一人一台端末の利用を促す。	・授業ｱﾝｹｰﾄ回答「授業がよくわかる」「授業がわかる」の合計が90% ・各学年で授業がある日の９割で授業配信											
	・生徒へ家庭学習を習慣づけるため、学校による組織的な取組を実施。	家庭と学習面での連携を図り、デジタル教材を使用することで、家庭学習の習慣づけを行う。	・「江戸川っ子studyweek!」で電子ﾄﾞﾘﾙ等に取り組む生徒数を半数以上にする。											
	・読書を通じた探究的な学習の実施・充実	・図書館整備を司書と計画的に進める。 ・図書館の使い方授業を実施する。 ・PTAの協力を得ることで、学校図書館の開設時間を増やす。	・読書科14回の１単位時間を活用し、学年で成果物を１つ以上作成する。 ・図書紹介年間１時間以上確保											
体力向上	・基礎体力の向上および運動する意欲の増進	・体力向上を促すために、体育の授業前に補助運動を必ず実施する。 ・全国や東京都の体力調査結果を分析し、生徒にとって伸ばすべき能力について確認する。	・体力調査 都の平均以上											
共生社会の実現に向けた教育の推進	・多様性やユニバーサルデザインなど共生社会に必要な知識理解の習得を推進。	・生徒に向けて障碍や多様性を理解する教育など人権に配慮した教育を実施する。	・障碍理解教育を各学年で実施 ・1学「ｱｲﾏｽｸ体験」2学「手話体験」3学「点字体験」 ・多様性を理解する講演会を11月に実施する。											
	・副籍交流の充実。 共生社会の理解を深める。	区内にある都立鹿本学園との副籍交流を通して、生徒の障碍者理解を深める。	特別支援コーディネーターが1学期に1回、副籍生徒の情報共有を行う。											
不登校・いじめ対応の充実	・不登校対策の実施及び更なる充実 エンカレッジルームを組織的に運用する	・研究対象校として積み上げてきたノウハウを生かす。 ・不登校を発生させない「発達支持的生徒理解」を推進する。	・エンカレッジルーム運営に全ての教職員が関与する。 ・不登校理解を深める教員への研修を年に1回以上実											
	・教育相談力の強化	・ﾔﾝｸﾞｹｱﾗｰの早期発見に必要な対応をする。実際に支援が必要と思われる事案にはSCやSSWなどの関係機関と連携し多方面から生徒への働きかけを行う。	・1年生と担任の面談を1回設定し、ﾔﾝｸﾞｹｱﾗｰについての聞き取りを行う。必要と判断すれば2回目の面談も実施する。											
	・hyper-QUを活用し生徒の学校生活を充実させる	・生徒やクラスの状況についての理解を深めるためhyper-QUを実施し、その結果を分析することで生徒にとってより良い学校生活への改善に活用する。	・hyper-QUを年に2回実施、結果を学年で共有しクラス運営の改善について話し合いをする。											
地域社会に開かれた学校の実現	・学校ホームページの充実	・本校の教育課程関連資料やいじめ基本方針をHPに掲示し、地域・社会に開かれた学校の実現を目指す。また生徒の日常の教育活動を可能な限りアップする。	・行事や学校での出来事を紹介するために週1回以上は学校HPの更新を行う。											
	・運動会や合唱コンクールなどの行事や授業公開の充実	・特に地域の自治会や町会の方々にも学校公開を参観していただく。	毎月１回配布している学校だよりに学校公開の内容を含めて配布する。											
	・地域行事の遂行について	・参加人数やその内容について検討しながら、地域への行事へ積極的に参加する。	・4月下旬と11月下旬に蓮植え。蓮堀りを計画する。 ・地域祭りボランティアへ生徒を1回は参加させる。											
特色ある教育の展開	・学校における働き方改革を意識した取り組みの実践	生徒の出欠席の連絡を「Tetoru」を用いることで業務負担を軽減する。朝の伝達事項をC4thの連絡掲示板等を使用することで朝会の時間を短縮させる。	朝全体打合せを3分以内に終わらせる。											